

海に浮かぶ小学校の新しい姿を探して | 熊本県津奈木町 / 第2回都市計画サロン「新国富(地域の豊かさ)指標導入の提案」のご報告

1. 海に浮かぶ小学校の新しい姿を探して 熊本県津奈木町

水俣市の北に位置する熊本県津奈木町は、平成の合併も行わなかった人口6000人弱の小さな街です。水俣病の発症地でもあるこの町は、そのイメージを払拭するため、1984年から「緑と彫刻のあるまちづくり」を展開しています。また、2010年に廃校となった赤崎小学校は、授業の休み時間などには校舎の窓から釣りができるなど、海の上に建つ小学校としてテレビや雑誌などに紹介され、全国的に有名になりました。2013年度から15年度にかけては、つなぎ美術館が「赤崎水曜日郵便局」というアートプロジェクトをこの小学校を舞台に開催し、2014年にはグッドデザイン賞を受賞しています。

このように魅力的な資源を有効に活用しないのはもったいないということで、2015年度より、住民を巻き込んでの「赤崎小学校跡地利活用」を考える活動が始まりました。ただ、校舎そのものは老朽化(海の上なのでボロボロです)のため、活用できないという難しさもあります。しかし、2015年度に開催した3回のWSなどを通して、この埋立地は最初、住民の力によって始まったこと、赤尾島に連なる磯場では、豊かなアクティビティがあったことなど、校舎以外の価値も明らかになってきました。WSにおいては、自治会の役員などの主要メンバーだけではなく、主婦の方や中学生なども自主的に参加してくださり、地域コミュニティの強さを実感するとともに、地域外から偶然訪れていた方も飛び込みで参加されるなど、この場所の知名度も実感することとなりました。2015年度中には、市民の皆様の思いを形にした構想がまとまります。これからは、津奈木町で展開されているアートプロジェクトや農産物のブランド化などと連携しながら、行政、住民、あるいは地域外の多くの方々のお力を借りながら、その構想を実現できるよう、努力していきたいと考えています。

(文責：星野裕司(熊本大学))



写真 赤崎小学校と赤尾島

2. 第2回都市計画サロンのご報告

演題：「新国富(地域の豊かさ)指標導入の提案」

日時：平成27年12月18日(金)

講師：馬奈木 俊介氏 (九州大学大学院工学研究院 都市システム工学講座 教授)

新国富は、短期的な経済変動をみるGDPではなく、長期的に持続可能な発展を測るために「地域の豊かさ」を経済価値で評価する指標です。現在、馬奈木氏を中心とした研究グループでは、こうした考え方に基づく評価の実用に向け、政府や地方自治体に対して紹介・解説や導入提案など積極的な働きかけを行っています。今回はこの新国富指標の必要性や特徴をはじめ、馬奈木氏らが提案している推計フレームワークなどについてご紹介いただきました。

人口減少や高齢化に直面する我が国では、地方創生などこれまでとは異なる地域課題に取り組んでいます。各地域では、社会面から地域の良さを総合的に評価し、それに基づく処方(政策)を投じる必要があります。この総合評価は、さまざまな「資本」を計測して経済価値に換算していきます。経済モデルにおける生産関数の「資本」に相当するもの、人工資本(これまでも考慮されてきたインフラ、建物、機械など)、自然資本(化石燃料、鉱物、水産物、森林資源、農業用地など)、人的資本(健康や教育など)の3種類を金銭換算し、これらを足し合わせ、必要に応じて調整項目を差し引きます。この評価方法について、実際に日本全体、都道府県、市町村の具体的な推計のうち、日本全体、都道府県、福岡市、水俣市、北九州市の結果もご紹介いただきました。

この新国富の考え方について参加者からは、価値の捉え方や計測の具体的な方法、ISO化に向けたステップなどに対する質問や意見など多数挙がり、活発な議論が行われました。

(文責：幹事 永村景子(九州大学))



写真 第2回都市計画サロンの様子